

20

鑄造可能即時重合レジン

●レジナップ

岡崎卓司

Takuji OKAZAKI

●大阪府・開業

●はじめに

従来よりパターンレジンが考案されて、各社から発売されており、チェアーサイドにおける直接法による鑄造用パターン採得や、技工室における鑄造パターン採得に威力を発揮し重宝されてきている。

しかし今回テストを行った「RESINUP」は多目的の即時重合レジンであり、テンポラリークラウンに応用できるように歯冠色（アイボリー色）とし、またパターンレジン用としての特性も兼ね備えており、技工部門にも重宝な存在であろう。そこで今回臨床上数多く遭遇する鉤歯の歯冠修復において、鉤の再生を行わず正確に歯冠補綴を行うケースを取り上げ実験的使用を行ったので、その操作上色々と気付いた点をあげつつ使用感を記すことにする。

●特徴

1. 練和直後より容器や手にべと付かないようである。これは操作性に繋がることであろう。
2. 埋没、鑄造操作においてはクリストバライト系や、リン酸塩系の通常の埋没材を使用することができる。
3. 鑄造体にバリが発生することが少ない。
しかしながらマニュアルに忠実に操作することは当然重要である。

●用途

1. 鑄造操作における各種パターンに使用することができるが、比較的小きなパターンに限定して欲しい。
2. しかしながら、平行性のやや悪いブリッジの

ワックスパターンや、ロングスパンのブリッジの鑄造パターンの採得にあたっては、鉄筋を立てるように骨子になる部分を筆積み法にて本材を使用し、後をワックスで整形する方法をとる。

3. 被歯冠修復歯牙の支台歯形成前にシリコン印象採得を行っておき、支台歯形成終了後に支台歯表面に十分ワセリンを塗布しておいて、シリコン印象面に RESINUP を流し込み、形成後の支台歯に印象面をもどして切削前の天然歯冠を再現する。これを暫間被覆冠として使用する。暫時この暫間被覆冠を使用した後に、これを直接、埋没鑄造することにより、切削前の咬合バランスの取れた鑄造クラウンができる。
4. 正確な合釘の印象採得も容易にできる。
5. 鉤歯の歯冠修復において、鉤の再生を行わず正確に歯冠補綴を行うケースには威力を発揮できると思う。

今回は上記の5番目のケースを実際に体験したので反省を交えながら、図により解説したい。

●症例

患者 68歳女性、7 6の鉤歯の修復物(金鑄造冠)の再生

5 4 3 2 1 | 1 2 3 4 5 6 7 欠損の金属床を装着

図1：鉤歯の破損冠を除去した7 6で金属床のクラスプが健在であるので、鉤に冠を適合させる必要がある（鏡面反射）

図2：支台歯形成完了時の7 6（鏡面反射）

図3：切削完了した7 6の全面にワセリンを塗布して RESINUP を練和し、やや餅状にな

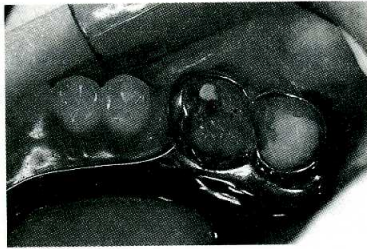


図1

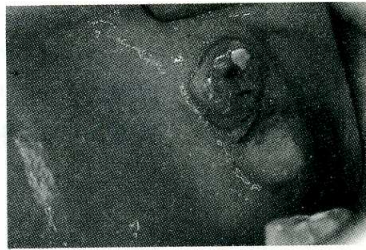


図2



図3

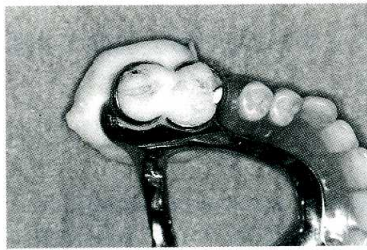


図4

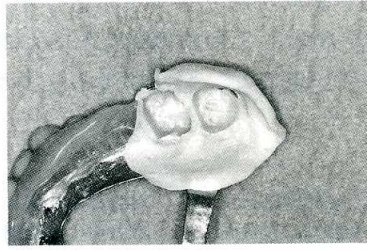


図5



図6

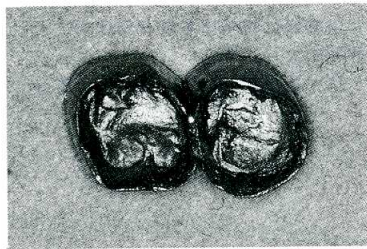


図7



図8

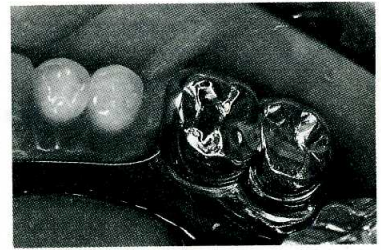


図9

ったところで歯牙に圧接し、概形が未硬化の時点で金属床を装着して、鉤の接触面を印記させて硬化を待つ（鏡面反射）

図4：RESINUP 硬化後口外に取り出したレジンパターンの咬合面観

図5：その粘膜面観

図6：余剰のレジンを切削除去して冠のパターンが完成したら、歯牙に戻して、さらに金属床を口腔に戻す（鏡面反射）。この際冠の辺縁部の適合は不鮮明であるので、さらに軟らかなレジンを筆積みにて追加し、すぐに支台歯に戻し辺縁部の適合を良くする。このときワックスとの併用も都合により行うとよい。

図7～9：完成した鑄造冠。口腔内での直接法による冠であるので、若干冠のマーシンの精度は良くないが、鉤の再生をしなくても、

鉤歯とクラスプは極めて適合が良い。

●考察

本法は従来のパターンレジンで試したことがあるが、なかなか思うように口腔内で形成がしにくく、中絶していたのであるが、今回 RESINUP にてどうやら成功した感じである。操作を終えてから感じたことであるが、図2の支台歯形成終了時点で、簡単に印象採得を行い、石膏模型上にて概略の RESINUP のパターンを作り、それを歯牙に適合させて、試適を行い、金属床を装着してスムーズに義歯床が挿入されるか否かをチェックする。ついでレジンパターンに筆積み法にて RESINUP を盛り上げ、直ちに支台歯に適合し、続いて金属床を口腔に挿入し、鉤の内面をレジンパターンに印記させる。レジンの硬化後、口腔外に取り出して、冠の形成を行う。このようなステップを踏めば、さらに精度は良くなるようである。今回

この RESINUP を使用してみて、歯科医師の技工技術のトレーニングの必要性を痛感したのである。

このケースのごとく金属床のように簡単に鉤の更新ができない症例においては、重宝な材料と思

えた。この他テンポラリークラウンも数個作ったが、これはいたって簡単で、他の歯冠色レジンと同様に作ることができる。この時の印象採得材は極力シリコン材の使用を勧める。

【メーカーへの質問】

1. ワックスとの併用について何か意見がありますでしょうか？
2. 鑄造前の RESINUP 表面の滑沢材として何か適当なものがありますでしょうか。当院では埋没前に表面にワックスを塗布していますが、いかがでしょうか？

● 亀水からの回答

1. ワックスとの併用については、まったく問題はありません。たとえば、咬合面にワックスを盛り、対合面を印記することもできますし、歯冠部気泡、コンタクトポイント等の簡単な修正もワックスならば手軽にすることができます。

また、支台歯形成前に窩洞部をワックス等で充填して歯冠部を整えてから、あらかじめシリコーン印象をとっておき、この印象面にレジナップを流し込んで、埋没鑄造し、削除前の天然歯冠形態を再現した鑄造冠にするのがレジナップの目的です。この場合にも、ご

質問にありましたように、別に作製した作業模型上で埋没前に歯頸部をカービングワックスにて正確に形成することによって、精度の高い、生体(特に歯周組織)にマッチした理想的な天然歯冠形態の鑄造冠が得られます。

2. 埋没前のレジナップ表面に塗布する滑沢剤は特にございませんが、ご質問のようにワックスにてレジナップ表面を滑沢にすれば、より鑄肌の良い鑄造体が得られます。